

基礎学力に関する9つの考え方

笠岡市教育委員会 学校教育課

- 1 確かな基礎学力の上に「生きる力」が成り立っている。
- 2 指導には「教師主導」と「支援」の両方が必要である。考えさせるところではしっかり考えさせ、教えるところではきちんと教え、子どもに任せるところは思い切って任せることが必要である。
- 3 反復練習なしではどんな力も身に付かない。しっかり反復練習するということは、あらゆる能力を身に付けていく際に欠かせないものである。
- 4 反復学習で「できる」「わかる」ようになれば、どの子も自信をつけ、学習が好きになる。そして、精神的に安定して問題行動も著しく減少する。
- 5 読み・書き・計算の反復学習こそが本物の思考力や想像力の基礎を培う。
 - ・計算の反復学習で数の概念が形成され、数学的な勘が発達する。それは、たんなる思いつきではない数学的思考力の基礎となる。
 - ・音読や漢字の反復学習も言葉や文字への感覚を育て、言語的思考力の基礎を培う。
 - ・音読・暗唱には集中力、記憶力、発想力、想像力などの知的能力を鍛える効果やストレス発散効果、精神安定効果がある。
- 6 読み・書き・計算といった基礎学力の高さが学習能力の高さにつながり、生きる力を含む学力全体の可能性を決定する。
- 7 読み・書き・計算は社会生活で最低限必要なものであり、「生きる力」の基礎である。しかも、その反復学習のなかでこそ、もっとも集中力や忍耐力、学習への構え、自信、達成感、心の安定などの「生きる力」の多くを培うことができる。
- 8 読み・書き・計算の学習のていねいな指導によって、知性だけでなく勤勉さやまじめさ、忍耐強さなどの日本人のよき伝統的特性を培うことができる。
- 9 どの子にも基礎学力をきちんと身につけさせることは、学校の最大の責任である。このことなくして、保護者の信頼は得られない。

参考文献：杉田久信「1日15分みるみる伸びる学力5つのメソッド」(フォーラム・A) 他

※杉田氏は、富山市立山室中部小学校の元校長で、同校は公益財団法人パナソニック教育財団「第34回特別研究指定校」である。山室中部小学校では、基礎学力の定着に重点を置いた指導が全校挙げて徹底して行われたが、その結果、思考力・判断力・表現力も含んだ「総合的な学力の向上」を成果として得ることができた。